

平成26年 2月

伊藤静香 学位論文審査要旨

主 査 松 浦 達 也
副主査 中 村 廣 繁
同 清 水 英 治

主論文

Synergistic cell growth inhibition by the combination of amrubicin and Akt-suppressing agents in *K-ras* mutation-harboring lung adenocarcinoma cells: Implication of EGFR tyrosine kinase inhibitors

(*K-ras*変異陽性肺癌細胞株に対するアムルビシンとAkt活性阻害薬の相乗効果:EGFRチロシンキナーゼ阻害薬の意義)

(著者:伊藤静香、井岸正、高田美也子、上田康仁、松本慎吾、小谷昌広、武田賢一、泉大樹、阪本智宏、山口耕介、牧野晴彦、唐下泰一、千酌浩樹、清水英治)

平成26年 International Journal of Oncology 44巻 685頁～692頁

参考論文

1. Acute aortic thrombosis during cisplatin based chemotherapy for gastric cancer
(シスプラチンによる化学療法中に腹部大動脈血栓症を来した胃癌の1例)
(著者:伊藤静香、中村由貴、能美隆啓、佐々木祐一郎)
平成25年 Internal Medicine 52巻 973頁～975頁

審査結果の要旨

本研究は*K-ras*変異を有する肺腺癌細胞由来のA549細胞を用いて、EGFR-TKIを含むAkt阻害活性を有する薬剤とAMRの併用により細胞増殖に対する効果を検討したものである。その結果、臨床的に使用可能なEGFR-TKIでAkt活性の阻害が認められ、AMRと併用することで相乗的に細胞増殖が抑制されることが示された。また、変異*K-ras*タンパク質の発現抑制や、*K-ras*遺伝子変異のないMa10細胞ではその相乗効果がみられないことから、Akt阻害剤とAMRの併用による相乗的な細胞増殖抑制には*K-ras*遺伝子変異が関与している可能性が示された。*K-ras*を標的とした分子標的治療はまだ開発されておらず、この併用が*K-ras*変異陽性肺癌に対する有望な治療法となる可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。